平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	31399 番枝	地域老人福祉推進事業費（老人クラブ活動費助成事業）	担当課	高根支所地域振興課	内線 3722
予算 会計	1	一般会計	特別予算の位置付け		A 合併前から実施されているイベント・行事
予算 款	3	民生費		○	B 一般予算の上乗せとして実施されている事業
予算 項	1	社会福祉費			C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
予算 目	3	老人福祉費			D その他事業
根拠計画					
市長公約	5	医療・福祉を充実させます。 地域住民が互いに支え合う仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要援護者等への地域福祉体制を整備します。			

1 事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,677 人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	明るい長寿社会と豊かな老後を目指す。		
概要	事業の実施手法（手段）	高齢者の生きがいと健康づくり、また高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、福祉の向上のために事務局人件費を助成し、老人クラブを通じて、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	市連合長寿会に対して、事務局人件費を助成。

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,500	10,000	10,000
			実績値	9,796	9,584	－
	算出根拠等		達成率(%)	93	96	－
活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	150	143	139
			実績値	143	139	－
	算出根拠等		達成率(%)	95	97	－
活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	43	40	40
			実績値	39	38	－
	算出根拠等		達成率(%)	91	95	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出 （千円） （A）	420	420	420
財源内訳 受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳 その他特定財源（国・県支出金・起債等）	162	150	280
財源内訳 一般財源	258	270	140
コスト指標 受益者1件当たり（円） （A／B）	5,185	5,753	6,000
コスト指標 受益者 高根区会員数（4月1日現在） （B）	81	73	70

3 分析・評価（Check） ※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の感心は高く、地域活動にも根付いている。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	市は、老人福祉法（第十条の三第一項）の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進する目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	老人クラブ加入者は、年々減少傾向であるため、長寿会の組織の活動の見直しや活動内容の充実に取り組んでいる。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	支所地域長寿会事務局の人件費補助として、最小限の経費である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計			8 ／ 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	新規加入者が少なく、連合長寿会会員の減・単位クラブの減が課題となっているため。健康で生きがいを持って生活するために、地域とのつながりも深めながら、今後一層の充実と活発な取組みが必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。

4 今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら事業継続し、組織の育成と活動の支援を行う。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・老人クラブ活動費補助金（31336事業）との一本化を図る。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	61199	地域活性化施設振興事業	担当課	高根支所　地域振興課	内線
	枝番				3710

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	6	商工費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	商工費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	1	商工振興費			D	その他事業

根拠計画		地域振興計画
市長公約	2	商工業・地場産業をさらに発展させます ◎景気回復を最重要課題として取り組みます

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根支所地域全住民	対象者数	398　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	道の駅飛騨たかね工房は、地域の情報発信及び特産品の直売所としてだけでなく、地域の活性化施設として重要な位置づけとなる施設であるが、年間を通じた安定した集客が困難であるため、施設の運営が非常に厳しい状況にある。 よって、施設の安定した運営のため、業務委託料を支出するもの。		
概要	事業の実施手法（手段）	道の駅飛騨たかね工房の安定した運営のため業務委託料を支出するもの。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	道の駅飛騨たかね工房業務委託料　6,340千円

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	年間営業日数	日	目標値	310	309	310
			実績値	310	309	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	年間入り込み客数	人	目標値	61,500	61,500	61,500
			実績値	45,814	48,386	－
	算出根拠等　道の駅年間入込客数（観光動態調査）		達成率(%)	74	79	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

H24より特産品の販売に力を入れて実施している。

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	6,340	6,340	6,340
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		6,340	6,340	6,340
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	138	131	103
	受益者　年間入り込み客数	（B）	45,814	48,386	61,500

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・道の駅本来の役割の他、地場産商品の販売や情報発信を行っており、地場産業・観光産業の欠かせない存在で、市民のニーズは高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・道の駅本来の役割の他、地場産商品の販売や情報発信を行っており、地場産業・観光産業の欠かせない存在であるが、今後さらに効果のある誘客宣伝の実施や経営改善に努め、経営の黒字化により事業者が自己費用で運営可能となるような取組みが必要である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・道の駅本来の役割の他、地場産商品の販売や情報発信を行っており、地場産業・観光産業の欠かせない存在であるが、今後さらに効果のある誘客宣伝の実施や経営改善に努め、経営の黒字化により事業者が自己費用で運営可能となるような取組みが必要である。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・施設の存続のために最小限の赤字補てん措置を行っている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・道の駅本来の役割の他、地場産商品の販売や情報発信を行っており、地場産業・観光産業を発展させるために欠かせない存在である。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		9 ／ 10	→	100点換算	90　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・道の駅施設は今後も存続していく必要があるが、その経営は非常に厳しい。地域振興特別予算の業務委託料に頼らず経営できるような取り組みが必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・地域の個性を活かした地場産品の物販・観光の拠点施設であるが、採算面で厳しさが増しており、今後のあり方などについて検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・地場野菜の販売の拡充を実施。 ・他の観光施設と連携して割引クーポンを発行し、利用者の増加を図る。 ・レストランの利益増加のため、魅力ある新メニューの開拓と不人気メニューの廃止を実施する。 ・効率的なパート利用の実施など人件費の削減。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・地域の特産品開発、販売の拠点機能をもつ道の駅は、ほかに類似する施設はなく、事業は今後も継続していくが、今後さらに効果のある誘客宣伝の実施や経営改善に努めていく。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、今後のあり方などについて検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	72199	地域道路橋りょう管理振興事業費（市道未登記用地測量事業）	担当課	高根支所　基盤産業課	内線 3742
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け		A 合併前から実施されているイベント・行事
	款	7 土木費		○	B 一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 道路橋りょう費			C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 道路橋りょう総務費			D その他事業
根拠計画		地域振興計画			
市長公約					

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根地域の住民	対象者数	398　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・未登記路線を整理し、市道の適切な管理を行う。		
概要	事業の実施手法（手段）	・市道未登記箇所の測量を行い、所有者から寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績：・市道池ケ洞線、黍生線、調査延長1，095m （7筆）

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	調査測量済路線延長	m	目標値	800	500	500
			実績値	750	1,095	－
	算出根拠等：未登記路線実績調査		達成率(%)	94	219	－
活動指標	分筆登記済路線延長	m	目標値	400	400	400
			実績値	10	0	－
	算出根拠等：未登記路線実績調査		達成率(%)	3	0	－
成果指標	未登記整備進捗率	%	目標値	5	6	5
			実績値	5	5	－
	算出根拠等：分筆登記済路線延長累計/未登記路線延長(27,244m)		達成率(%)	100	83	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

・山地施工であり、1筆あたりの面積も大きいため、隣地確認等を優先して行ったことから調査測量延長は増加したが、登記業務の実施まで至らなかった。

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出 （千円）（A）	4,997	4,975	6,000
財源内訳：受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳：その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳：一般財源	4,997	4,975	6,000
コスト指標：受益者1件当たり（円）（A／B）	11,055	11,930	15,075
コスト指標：受益者　4/1現在高根地域住民（B）	452	417	398

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	官民の土地の境界を明確にするために必要な事業である。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	官民の土地の境界を明確にするために必要な事業であり、所有者から寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う事業であることから、事業主体となることは当然である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	未登記路線の延長が25,986mと多いため、莫大な時間と費用を要するため、継続して着実に遂行していく必要がある。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	単価契約により土地家屋調査士協会に委託しており、適正である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	未登記処理をすることにより、市の行政財産とすることが出来る。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計			8 ／ 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・世代交代により、相続に関する課題も多くあり、地権者の了解を得るのに時間を要する。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・平成26年度までに重要路線の未登記処理を完了できるよう積極的に取り組んでいく必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・地元町内会の協力を得ながら現地確認を実施し、所有者の確認を着実に進めていく。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・重要路線の未登記処理は今後も継続して行く必要がある。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	維持・改善	○ 拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・平成26年度までに重要路線の未登記処理を完了できるよう積極的に取り組んでいく必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	94199	花いっぱい運動事業	担当課	高根支所　地域振興課	内線
	番枝				3711

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	4	社会教育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	1	社会教育総務費			D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 4	個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます。 ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニケーション活動や環境整備事業の予算枠を確保します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根支所地域全住民	対象者数	398　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・高根地域独特の自然環境を活かした山野草を植栽することで、地域を花で飾り、観光客へのイメージアップと住民への愛着心を高揚させる。		
概要	事業の実施手法（手段）	・花いっぱい用の山野草苗購入 ・花壇整備・管理・花苗の植栽等を高山市シルバー人材センターへ委託		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・山野草花苗購入　　285千円 ・花壇維持管理業務　475千円

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	花いっぱい用花壇の整備箇所数	箇所	目標値	11	11	11
			実績値	11	11	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
活動指標	花を楽しむことのできる期間	月	目標値	3	3	3
			実績値	3	3	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
活動指標	小学生の郷土学習	学年	目標値		1	1
			実績値		1	－
	算出根拠等		達成率(%)		100	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

・朝日小3年生の郷土学習の授業に取りあげられた。

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出　（千円）　（A）	760	760	800
財源内訳　受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳　その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳　一般財源	760	760	800
コスト指標　受益者1件当たり（円）　（A／B）	37	31	32
コスト指標　受益者　7～9月の道の駅利用者　（B）	20,816	24,905	25,000

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・花いっぱい運動を高根地域全域にという地域からの要望がある。 ・山野草のファンには大変ニーズが高く、また一般観光客についても他の地域では見られない高根地域ならではの環境にマッチした山野草の花壇に関心を示し、山野草の開花期とともに訪れる写真愛好家も増えてきている。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・花壇は国道361号線沿いを中心に広範囲に渡るため、町内会等での管理等は困難であり市が実施しないと維持できない。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・高根地域ならではの、山野草の花壇があることにより、地域住民の郷土愛の高揚につながっている。 ・小学校の郷土学習として取り上げられている。 ・国道沿いに11か所花壇を整備していることから、環境・景観もよく観光客のイメージアップにつながっている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・補植を中心とするなど最小限のコストで実施している。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・高根地域独自の、自然環境に適した山野草を植栽し、地域らしい花飾りで観光客へのイメージアップと地域への愛着心の高揚につながっている。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計			9 ／ 10	→	100点換算	90　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・多年草の山野草が定着したら苗の購入は少なくなるが、花壇の管理業務は必要であり、管理体制の検討が必要。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・花いっぱい運動については、一般予算による補助金（市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等）との整理が必要である。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・山野草花壇の維持管理と、昨年猪の被害にあった花壇の整備と山野草の補植を実施し山野草花壇を充実させる。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・高根地域独自の、自然環境に適した山野草を植栽し、地域らしい花飾りで観光客へのイメージアップと住民の地域への愛着心を高揚させる事業であり、今後も継続する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	94699	地域文化振興事業	担当課	高根支所　地域振興課	内線
	番枝				3710

予算			特別予算の位置付け		
会計	1	一般会計		A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	6	文化振興費		D	その他事業

根拠計画		地域振興計画
市長公約	9	伝統文化を守り、次代へ継承します。 心の中の生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気作りにもつながる芸術文化活動をさらに浸透させていく

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根地域全住民	対象者数	398　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・文化芸能祭を通して、地域の伝統・文化を再認識し、地域への愛着、郷土意識を高める事ができる。 ・地域の文化振興と地域コミュニティの推進を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・高根地域の文化芸能祭の運営費を社会教育推進協議会へ補助する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面		
	H24の実績	・高根地域の文化芸能祭の運営費を社会教育推進協議会へ補助。

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	高根地区文化祭の開催回数	回	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	高根地区文化祭の参加人数	人	目標値	200	200	200
			実績値	200	250	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	125	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面	事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出（千円）（A）	150	150	150
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）			
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
	一般財源	150	150	150
コスト指標	受益者1件当たり（円）（A／B）	332	360	377
	受益者　高根支所地域全住民（B）	452	417	398

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・高根地域の少子高齢化が加速する中において、文化交流を通じて地域の絆を図ることのニーズは高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・地域の公民館等において開催される文化芸能祭等に対し助成されているものである。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・この事業は住民の意識も高く、参加率も高いことから十分達成している。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・この事業は地域の公民館等において開催される文化芸能祭等に対し助成されているものであり、社教推進委員が手作りで最小限のコストで最大の地域活性を図るために実施しているものである。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・高根地域の少子化高齢化が加速する中において、文化交流を通じて芸能文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出また、地域住民の集いの場となり地域の連携を図り生きがいと活力ある地域づくりにつながっている。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		9 ／ 10	→	100点換算	90　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・事業内容見直しと今後の補助に対する検討が必要。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・補助金の有効活用のため、社会教育推進員会に対する助言等の実施。

次年度の実施方針（担当課評価）										
	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・高根の住民の心と生活に潤いと豊かさを醸し出す事業であり、住民の参加率も高く、高根全体の住民が集える場であるため引き続き継続する。									

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）										
		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。									

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	95199	地域スポーツ振興事業	担当課	高根支所　地域振興課	内線
	番枝				3710

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	5	保健体育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	1	体育総務費			D	その他事業

根拠計画		
市長公約	9	伝統文化を守り、次代へ継承します。 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながる芸術文化活動をさらに浸透させていく。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根地域全住民	対象者数	398　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・各軽スポーツを通して、地域の連携と健康増進を高めることができる。 ・地域のスポーツ振興と地域コミュニティの推進を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・高根地域の軽スポーツ大会、ふれあい運動会の運営費を社会教育推進協議会へ補助する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面						
H24の実績	・高根地域のスポーツ振興事業運営する社会教育推進協議会へ補助					
	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	軽スポーツ交流大会等の開催回数	回	目標値	5	5	5
			実績値	5	5	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	高根地区軽スポーツ大会等参加者数	人	目標値	360	360	360
			実績値	321	248	－
	算出根拠等		達成率(%)	89	69	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
補足事項	・軽スポーツ交流により高根地域の住民が集い、マンネリ化した生活や心に潤いを醸し出すとともに、地域の連帯感を高め住民の健康・体力の向上と維持、生きがいづくりの場となっている。					

コスト面			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）					
歳出（千円）		（A）	400	400	400
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		400	400	400
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	885	959	1,005
	受益者	高根支所地域全住民　（B）	452	417	398

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・高根地域の少子高齢化が加速する中において、軽スポーツ交流を通じて地域の連携を図ることのニーズは高い
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・地域住民全員を対象とし、公民館等において開催される軽スポーツ交流大会等に対し助成されているものである。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・ふれあい運動会を筆頭に、参加率も高いことから十分達成している。なお事業内容がマンネリ化しているという意見があることから、社教と調整しながら事業内容を見直す必要がある。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・事業の効率化・省力化・費用についても毎年検討されているところであるが、特例期間終了を見据えて社教と協議していく必要がある。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・高根地域の少子高齢化が加速する中において、軽スポーツ交流を通じて地域住民が集い・地域の連携を図り・生きがいと活力ある地域づくりにつながっている。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計			9 ／ 10	→	100点換算	90　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・高根地域住民が集う場で参加率も高い事業ではあるが、少子高齢化に伴う事業内容見直しと、今後の補助に対する検討が必要。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・補助金の有効活用のため、社会教育推進委員会に対する助言等の実施

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	高根の住民生活に潤いと豊かさを保ち、住民の参加率もよく、集う場として引き続き継続する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小（廃止）を検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	20899	遊休施設解体事業	担当課	高根支所　地域振興課	内線
	番枝				3710

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	2	総務費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	総務管理費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	8	財産管理費			D	その他事業

根拠計画		
市長公約	10	市民のための行政改革を実施します ◎将来を見据えて今必要な行政改革をすぐに断行します ・市の施設や支所の改修利用を進めるほか、遊休施設・土地などの有効活用を行います

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根地域全住民	対象者数	398　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・使用されていない構築物、建物等の処分		
概要	事業の実施手法（手段）	・不用構築物、建物等の処分解体		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	遊休施設解体処分	件	目標値			4
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
成果指標			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	0	0	10,063
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源				10,063
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	0	0	25,284
	受益者　高根地域全住民	（B）	452	417	398

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	・H25新規事業
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	・H25新規事業
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	・H25新規事業
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	・H25新規事業
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	・H25新規事業
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		／	→		100点換算	評価対象外　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	51399	地域特産品ブランド化振興事業	担当課	高根支所　基盤産業課	内線
	番枝				3741

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	5	農林水産業費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	農業費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	3	農業振興費			D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ・飛騨高山のブランドにふさわしい、生産者の顔がみえる安全で安心な付加価値の高い産地産品づくりに取り組みます。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	農家	対象者数	11　戸
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	地域畜産農家の堆肥を有効活用し、農地の地力を上げることにより、低農薬による「安心・安全」な農業生産を目指し、農作物のブランド化による農業所得の向上を図るため、簡易コンポスト建設に対して助成する。		
概要	事業の実施手法（手段）	簡易コンポスト建設に対する助成		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面	H24の実績	事業なし

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	蔬菜生産組合対象農家数	戸	目標値		12	12
			実績値		11	－
	算出根拠等：組合員		達成率(%)		92	－
活動指標	堆肥利用農家戸数	戸	目標値		12	12
			実績値		11	－
	算出根拠等		達成率(%)		92	－
成果指標	蔬菜（ほうれんそう）の出荷量	ケース	目標値	20,000	20,000	20,000
			実績値	23,000	19,700	－
	算出根拠等：飛騨農協調べ		達成率(%)	115	99	－
成果指標	蔬菜（ほうれんそう）の販売額	千円	目標値	50,000	50,000	50,000
			実績値	54,000	45,300	－
	算出根拠等：飛騨農協調べ		達成率(%)	108	91	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面	事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出（千円）（A）	0	0	2,200
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）			
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
	一般財源			2,200
コスト指標	受益者1件当たり（円）（A／B）			200,000
	受益者：高根町蔬菜生産組合農家（B）			11

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	地域内で良質な堆肥を生産し、農地に還元することにより農産物のブランド化に資するべく要望があったもの。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	高根町蔬菜生産組合が建設するコンポストに対し助成するものであり、地域内には他に生産する団体は無く、組合に助成することにより作物の品質向上や地域農家との調整もスムーズに行える。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	地力の低下を防ぎ、自ら管理して有機完熟たい肥を作ることで、高品質のホウレンソウ栽培が行える。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	必要な面積や設備で施工しており、受益者負担も1/2以上あり適正負担である。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	市長の約束にもある付加価値の高い特産品づくりを目指す施策である。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		8 ／ 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	※H23年度実施についての評価（H24年度は実施なし） ※H25年度のみの事業 農家の高齢化と後継者不足により、作付面積の拡大等が進まない中、生産性や品質を高めるとともに、Uターン者による畜産業への就業により地域活力の向上が望まれる。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	※該当なし

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・次年度以降も良質な堆肥を生産し、付加価値の高い産地産品づくりに取り組む。

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	51399	生活環境保全対策事業	担当課	高根支所　基盤産業課	内線
	番枝				3741

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	5	農林水産業費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	農業費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	3	農業振興費			D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ・有害鳥獣対策が緊急の課題であるため、駆除と防御事業を強化し、活用方策について具体的に取り組みます。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根地域住民	対象者数	398　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	有害鳥獣による被害を防止するため、集落の周囲に獣類の侵入防止柵等を設置し、安心して暮らせる地域づくりを目指す。		
概要	事業の実施手法（手段）	有害鳥獣侵入防止柵等の設置に対する助成。		

2　事業の推移・結果（Do）

H24の実績

・日和田町内会が実施した獣類侵入防止横断溝設置に対する助成　横断溝　L=10.0m　事業費　1,207,500円　補助金　966,000円
・阿多野郷町内会が実施した簡易獣害防止柵設置に対する助成　柵設置　L=2,334m　事業費　6,520,500m　補助金　5,216,000円
・小日和田町内会が実施した簡易獣害防止柵設置に対する助成　電気柵　L=1,500m　事業費　912,240円　補助金　735,000円

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	施工延長	m	目標値	35,000	35,000	38,000
			実績値	21,367	25,211	－
	算出根拠等：事業計画・実績		達成率(%)	61	72	－
成果指標	事業実施箇所数	地区	目標値	2	2	1
			実績値	2	3	－
	算出根拠等：補助金交付申請書		達成率(%)	100	150	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

H25年度分については、緩衝帯を設ける事業で国の補助対象事業となり、1/2補助金で充填されるため　↓

コスト面	事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出（千円）（A）	7,000	6,917	4,300
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）			
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
	一般財源	7,000	6,917	4,300
コスト指標	受益者1件当たり（円）（A／B）	15,487	16,588	10,804
	受益者　4/1現在　高根町住民（B）	452	417	398

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	有害鳥獣対策には市民の強い関心があり、侵入防止柵等の設置希望は高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	町内会が実施をするため市はその一部を助成し施策の実現を図るものである。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	獣類によりその効果は様々であるが、イノシシに対する効果はあがっている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	地域住民の出役等により事業費の抑制もされている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	市の施策、市長公約の実現を図るものである。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	9 ／ 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・イノシシとサルでは、侵入方法が異なるため、その対策を同時にすることは困難である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・鳥獣被害は深刻な問題であり、早急に対応する必要がある。 ・一般予算とのバランスに配慮し実施する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	人間と野生鳥獣との境界線となる緩衝帯を整備し、野生鳥獣の棲み家になりうる集落周辺の手入れ不足の土地を伐木除去することで、人間の居住空間と野生鳥獣のテリトリーの棲み分けを行う。

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	72299	道路照明施設環境整備事業（廃止済街路灯撤去）	担当課	高根支所　基盤産業課	内線 3741
	番枝				

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	7	土木費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	2	道路橋りょう費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	2	道路橋りょう維持費			D	その他事業

根拠計画	
市長公約	

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	市民及び観光客	対象者数	398　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	合併前の旧高根村において整備した道路照明（街路灯）のうち、合併後廃止した街路灯１１基を撤去し、道路環境整備を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	請負による。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	無し

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	撤去街路灯	基	目標値			11
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	0	0	1,000
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
財源内訳	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
財源内訳	一般財源				1,000
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）			2,513
コスト指標	受益者　高根地域住民	（B）			398

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	H25年度　単年度事業
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H25年度　単年度事業
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	H25年度　単年度事業
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	H25年度　単年度事業
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	H25年度　単年度事業
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計			／	→	100点換算	評価対象外　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	無し
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	無し

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	H25年度　単年度事業

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	81399	地域消防施設振興事業	担当課	高根支所地域振興課	内線
	番枝				3710

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	8	消防費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	消防費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	3	消防施設費			D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 10	市民のための行政改革を実施します ◎将来を見据えて今必要な行政改革をすぐに断行します ・市の施設や支所の改修利用を進めるほか、遊休施設・土地などの有効活用を行います

1 事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根支所地域全住民	対象者数	398 人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・使用されていない構築物の処分		
概要	事業の実施手法（手段）	・使用されていない消防ホース乾燥塔を撤去する。		

2 事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・なし

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	消防ホース乾燥塔撤去	塔	目標値			2
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
成果指標	施設利用者数（中之宿・猪之鼻地区）	人	目標値			22
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	0	0	300
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源				300
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）			754
	受益者	高根支所地域全住民 （B）			398

3 分析・評価（Check） ※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	・H25新規事業
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	・H25新規事業
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	・H25新規事業
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	・H25新規事業
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	・H25新規事業
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計			／	→	100点換算	評価対象外 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	

4 今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	

次年度の実施方針（担当課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H25完了予定

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	20899	地域財産管理事業	担当課	高根支所　地域振興課	内線
	番枝				3710

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	2	総務費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	総務管理費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	8	財産管理費		○	D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約	

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根支所地域全住民	対象者数	398
	どういう状態にしたいのか（意図）	・市有地の適正管理		
概要	事業の実施手法（手段）	・市有地を含めた子ノ原高原の土地、道路等の適正な維持管理		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・市所有面積2,800坪に応じた負担金76,020円＝（1,000坪×40円+1,800坪×18円）×1.05

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	財産管理面積	坪	目標値	2,800	2,800	2,800
			実績値	2,800	2,800	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	当該財産の見回り点検	日	目標値	7	7	7
			実績値	7	7	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	77	77	77
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		77	77	77
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	170	185	193
	受益者	（B）	452	417	398

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	C	・市有地の適正な管理は、市の財産を守る上からも全市民への市有地の適正な管理及び地域を訪れる観光客等へのイメージアップにも波及効果がある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・財産を所有している限りは適正な管理が必要である。 ・使用目的が無い
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・適正に管理されている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計			2 ／ 6	→	100点換算	33 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・財産を所有している限りは負担が必要であり、今後、有効活用が図られなければ、処分についての検討が必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・財産を所有している限りは負担が必要である。他の市有財産の処分等統一的な考え方に基づき実施する。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・他の未利用となっている市有地や施設等の売却等処分について、統一的な考え方の検討の実施。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・財産を所有している限りは負担が必要である。他の市有財産の処分等統一的な考え方に基づき実施する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	（担当課評価に同じ）				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 （冬季高齢者住宅開設事業）	担当課	高根支所　地域振興課	内線
	番枝				3710

予算			位置付け（特別予算の）			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	3	民生費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	社会福祉費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	3	老人福祉費		○	D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 5	医療・福祉を充実させます ・在宅介護支援を含め、高齢者集合住宅の拡充施策に取り組みます。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	65歳以上の市民	対象者数	26,038
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・空き施設の有効利用と高齢者が安心して暮らせる地域づくりをめざすことを目的とする。		
概要	事業の実施手法（手段）	・冬季高齢者住宅開設 開設期間　12月～翌3月　　事業主体　高山市社会福祉協議会 旧学校教員住宅を使用 施設利用に伴う施設改修、維持管理費		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・建物管理経費　326千円 ・社協への補助金　1,800千円

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	冬季高齢者集合住宅開設月数	月	目標値	4	4	4
			実績値	4	4	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	施設利用者数	人	目標値	17	17	18
			実績値	11	9	－
	算出根拠等		達成率(%)	65	53	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

・成果：自宅だと積雪等により、運動量や地域住民との会話が無くなる中、利用者やボランティアと交流により体を動かし、また、会話を楽しむ中で健康が維持され安心感も得ている。

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	4,391	2,126	2,150
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）		1,500		
	一般財源		2,891	2,126	2,150
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	399,182	236,222	119,444
	受益者　施設利用者数	（B）	11	9	18

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・冬季生活の安定を望む高齢者のニーズは高い。 ・高根地域の高齢化率は51%と高く、独居・高齢者世帯も多く、ニーズは高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・医療・福祉を充実させることは重要である。 ・事業主体は、高山市社会福祉協議会で実績も良好であり、継続して実施する。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・12月から翌3月まで安定して開設しており、高齢者の安心・安全を確保している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・事業内容を精査しながら改善、工夫に取り組んでいる。 ・除雪をはじめとする問題で、自宅での生活が困難になる冬季に限って開設している。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・遊休市有施設の再利用により地域福祉医療の充実と地域活性化を図ることの有効性は高い。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 ／ 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・冬季利用だけではなく、その他の季節の有効活用の検討や入居者の負担割合等について協議が必要である。また、入居者の確保が必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・特に冬期間とじこもりがちとなる高齢者に「集団生活」による安心感を提供し、地域の高齢者への支援策として重要な事業であることから継続する。また、冬季以外の活用についても検討する。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・運営補助金のあり方や冬季以外の季節での利用方法の検討。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・冬期間とじこもりがちとなる高齢者に「集団生活」による安心感を提供し、地域の高齢者への支援策として重要な事業であることから継続する。また、今年度の検討結果を踏まえて見直しを行い継続する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	（担当課評価に同じ）				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	42299 番枝	食用廃油回収事業	担当課	高根支所　地域振興課	内線 3710
予算 会計	1	一般会計	特別予算の位置付け		A 合併前から実施されているイベント・行事
予算 款	4	衛生費			B 一般予算の上乗せとして実施されている事業
予算 項	2	清掃費			C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
予算 目	2	塵芥処理費		○	D その他事業
根拠計画		地域振興計画			
市長公約	8	豊かな自然を守り、環境モデル都市をつくります。 ・地球温暖化の対策、生物多様性の保全活用など、環境保全は今を生きている全ての人々が取り組まなければならない重要な問題であるため、バイオマスの利活用や間伐材・林地残材製品の開発など、環境改善につながる取り組みを支援します。			

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根地域全住民	対象者数	398　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・食用廃油を回収して、精製処理し、リサイクル燃料として使用することにより、市民のリサイクル意識の向上を図るとともに、地域温暖化対策を推進する。		
概要	事業の実施手法（手段）	・一般家庭より排出される食用廃油、年6回4箇所の資源ごみ拠点集積所で回収する。 ・回収した食用廃油は、朝日支所の処理施設で精製し、公用車の燃料（BDF）として活用する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・延12回開設　回収量71ℓ

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	食用廃油回収箇所	箇所	目標値	4	4	4
			実績値	4	4	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	食用廃油回収量	ℓ	目標値	100	100	100
			実績値	79	71	－
	算出根拠等		達成率(%)	79	71	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）	（A）	37	38	30
財源内訳 受益者負担（使用料・負担金等）				
財源内訳 その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
財源内訳 一般財源		37	38	30
コスト指標 受益者1件当たり（円）	（A／B）	82	91	75
コスト指標 受益者	（B）	452	417	398

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・住民のリサイクル意識、再資源化に向けたニーズがある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・地球温暖化対策、環境対策につながることから政策的な重要性は高い。 ・民間による回収ルートが確立されつつあり検討が必要である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・回収率が減少しているがリサイクル意識の向上が図られている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・シルバー委託によりコスト縮減がある程度図られている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・リサイクル意識の向上をさらに図っていく必要がある。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		5 ／ 10	→	100点換算	50 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・回収方法の検証を図る。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・環境に対する効果、コスト面、精製処理した油の需要等を比較し、全市的に事業の実施方針・規模について検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・事業の必要性や効果を考慮しながら継続の可否の検討をする

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	事業の必要性を考慮しながら継続について検証が必要である。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・環境に対する効果、コスト面、精製処理した油の需要等を比較し、全市的に事業の実施方針・規模について検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	51399	ワークキャンプ活用事業	担当課	高根支所　基盤産業課	内線
	番枝				3742

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	5	農林水産業費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	農業費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	3	農業振興費		○	D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約	3

産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。

◎次世代につながる農業を確立します
・飛騨高山のブランドにふさわしい、生産者の顔がみえる安全で安心な付加価値の高い産地産品づくりに取り組みます。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	タカネコーン生産組合	対象者数	30　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・タカネコーン生産組合が主催する「タカネコーン収穫祭」のスタッフとしてNPO法人NICEから受け入れし、人手不足の解消とブランド化の推進に資する。		
概要	事業の実施手法（手段）	・NPO法人NICEへの負担金		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	NPO法人NICEへの負担金 50，887円 8／24～8／26　ワークキャンプ開催

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	NPO法人NICEへの負担金	千円	目標値	100	100	100
			実績値	51	51	－
	算出根拠等：予算・決算額		達成率(%)	51	51	－
成果指標	タカネコーン販売額	千円	目標値	5,200	5,200	5,500
			実績値	5,240	5,580	－
	算出根拠等：タカネコーン生産組合決算額		達成率(%)	101	107	－
成果指標	タカネコーン販売数	千本	目標値	22	22	32
			実績値	29	31	－
	算出根拠等：タカネコーン生産組合決算		達成率(%)	132	141	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）（A）	51	51	100
財源内訳：受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳：その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳：一般財源	51	51	100
コスト指標：受益者1件当たり（円）（A／B）	1,700	1,700	3,333
コスト指標：受益者　生産組合構成農家（B）	30	30	30

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	地域の高齢化により、収穫祭のスタッフを確保するのが困難な状況にあり、生産組合からの要望が強い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	「飛騨高山のブランドにふさわしい、付加価値の高い産地産品づくりに資するものであるが、定着化されれば組合事業として移行できる。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	生産組合を構成する農家が高齢化してきている中で、前年度以上の販売額、販売数量を上げていて、成果は上がっている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	生産組合とNICEとの交流がこれまで継続している中で、コスト縮減のために他のボランテイアの受入等については慎重に検討する必要がある。必要最小限の経費で、組合でも食料等を負担している。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	標高の高さを生かし栽培される糖度の高いタカネコーンは、市長公約の「飛騨高山のブランドにふさわしい、付加価値の高い産地産品づくりに取り組みます」に該当し、政策面での効果は大きい。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計			8 ／ 10	→	100点換算	80　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・地域の代表的な農産物であるタカネコーンのブランド力を維持していくため今後も継続していくことが理想であるが、生産組合の体制強化により組合独自の事業として移行する方向で検討する必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・一時的なスタッフの確保に対する負担金支出であることから、ブランド力強化のための別の方策を考える必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・生産組合と今後の実施方針等を調整する。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・ブランド力の向上と生産組合の体制強化のため、当面継続していく。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・市が主体となって行う事業としては終了し、自主的運営に向けた取り組みを進める必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	62199 番枝	野麦峠における交流促進事業	担当課	高根支所　地域振興課	内線 3722
予算 会計	1	一般会計	特別予算の位置付け		A 合併前から実施されているイベント・行事
予算 款	6	商工費			B 一般予算の上乗せとして実施されている事業
予算 項	2	観光費			C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
予算 目	1	観光振興費		○	D その他事業
根拠計画		地域振興計画			
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・最新の媒体を駆使し、多様な誘客を行います。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。			

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根地域全住民	対象者数	398　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・江戸時代からの交通の要所として、飛騨から塩鰯が運ばれたぶり街道として、小説や映画「あゝ野麦峠」で全国に知られる野麦峠を中心とした観光PRにより、観光客の増加を図るとともに、隣接する松本市や映画上映会がきっかけとなり交流が深まっている岐阜市柳ケ瀬商店街と連携しながら野麦峠における交流を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・野麦峠まつり（糸引き工女行列再現） ・高根・柳ケ瀬つながる元気まつり ・旧野麦街道（糸引きの道）モニターツアー		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面	H24の実績	・映画「あゝ野麦峠」上映会（高山市世界生活文化センター） ・野麦峠まつり ・高根・柳ケ瀬つながる元気まつり 野麦峠PRのため上記イベント経費の一部を負担。

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	イベント回数	回	目標値	4	3	3
			実績値	4	3	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
活動指標	松本市との交流イベント回数	回	目標値	2	1	1
			実績値	2	1	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
活動指標	岐阜市柳ケ瀬商店街との交流イベント	回	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	－
成果指標	野麦峠年間入込客数	千人	目標値	25,000	25,000	25,000
			実績値	20,705	17,413	－
	算出根拠等		達成率(%)	83	70	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面	事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出（千円）（A）	300	300	300
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳	その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳	一般財源	300	300	300
コスト指標	受益者1件当たり（円）（A／B）	664	719	754
コスト指標	受益者　高根地域全住民（B）	452	417	398

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	地域の活性化と生活基盤の確立のため、野麦峠を中心とした観光産業は欠かせない存在である。また、野麦峠の歴史は市民の誇りであり市民ニーズは高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・野麦峠を中心とした観光誘客は市としても重要であり、一定の助成は必要である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	イベントには県内外より多数の来客があり、観光PR効果は十分である。 入り込み客数は減少しつつあるが、全国的に観光客が落ち込んでいるため、今後も地道な取り組みが必要である。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	事業のコストは縮減等がある程度図られている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	松本市との合同開催により、同市との交流が図られている。 また、両市の観光PRの相乗効果で、イベントには県内外より多数の来客があり、観光PR効果も充分である。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		9 ／ 10	→		100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・民間（観光関係団体等）が運営可能な体制づくりの構築に向けて、実行委員会を組織することで民間への移行にについて検討する必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・民間（観光関係団体等）主体への移行について検討する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小していく必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・民間（観光関係団体等）と協力・引き継ぎをしながら運営体制を作るため、高根町元気イベント実行委員会の組織強化を図る。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・野麦峠は、高根地域の主要な観光ポイントであると同時に、高山市街地への誘客効果も期待できるため、観光客の増加を図るために有効な事業である。地域全体の機運も高まっており、今後も野麦峠まつりなどの関連事業を引き続き行っていく必要がある。 ・平成27年度以降、工女衣装の維持管理に必要な経費を除き、市の助成なしでやっていけるよう、高根町元気イベント実行委員会へ引き継いでいく。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・民間（観光関係団体等）主体への移行について検討する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の支援を縮小していく必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	62399	地域観光施設事業	担当課	高根支所　地域振興課	内線
	番枝				3710

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	6	商工費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	2	観光費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	2	観光施設費		○	D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 1	積極的な観光振興策を実施します ◎最新の媒体を駆使し、多様な誘客を行います。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根支所地域全住民	対象者数	398　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・野麦峠を中心とした観光施設について、危険性のある個所や利用者からの不満が多い個所について改善していくことで、観光客の満足度をアップさせ、誘客に結び付ける。		
概要	事業の実施手法（手段）	・お助け小屋前の橋、野麦峠の館レストラン雨漏りなどの観光施設について小規模修繕を実施する。		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・野麦峠東屋修繕、野麦峠の館トイレの洋式化

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	修繕個所	個所	目標値		2	7
			実績値		2	－
	算出根拠等		達成率(%)		100	－
成果指標	野麦峠観光客数	人	目標値	25,000	25,000	22,500
			実績値	20,705	18,947	－
	算出根拠等　野麦峠年間入込客数（観光動態調査）		達成率(%)	83	76	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）（A）	0	1,229	5,400
財源内訳　受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳　その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳　一般財源		1,229	5,400
コスト指標　受益者1件当たり（円）（A／B）	0	65	240
コスト指標　受益者　野麦峠観光客（B）	20,705	18,947	22,500

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・地域を代表する観光施設として、市民への波及効果が大きく市民のニーズも高い。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市が所有する観光施設である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・観光施設として地域への誘客の他、市内への誘導や中継点としての役割も担っており欠かせない施設である。 ・入り込み客数は減少傾向であるが、誘客の為にも必要な修繕である。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・最小限のコストで適正に実施されている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・観光施設として地域への誘客の他、市内への誘導や中継点としての役割も担っており欠かせない施設である。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		10 ／ 10	→	100点換算	100　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	なし（H24新規事業）

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・観光施設の修繕や改修のうち、必要と認められるものについて実施していく。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・施設評価に基づき、必要性等について再検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	72299	住みよい地域づくり事業	担当課	高根支所　基盤産業課	内線
	番枝				3741

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	7	土木費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	2	道路橋りょう費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	2	道路橋りょう維持費		○	D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約 6	市民の生活と生命・財産を守ります。 ・支所地域と市街地を結ぶ主要道路の整備や都市計画道路の整備を進めます。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	市民及び観光客	対象者数	398　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・集落間を結ぶ市道の除草等により、市民及び観光客等の通行の安全確保を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・シルバー人材センターへの委託		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・市道　5路線　8．5mの草刈及び清掃

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	実施路線数	路線	目標値	5	5	5
			実績値	5	5	－
	算出根拠等：仕様書		達成率(%)	100	100	－
活動指標	実施延長	m	目標値	8,500	8,500	8,500
			実績値	8,500	8,500	－
	算出根拠等：仕様書（市道台帳より）		達成率(%)	100	100	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）（A）	462	567	600
財源内訳：受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳：その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳：一般財源	462	567	600
コスト指標：受益者1件当たり（円）（A／B）	1,022	1,360	1,508
コスト指標：受益者　4/1現在高根地域住民（B）	452	417	398

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	高齢化が進む中、集落間道路の草刈清掃について、地域住民では対応できなくなったため要請がある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	市道の維持管理事業であり、生活道路の環境保全からも市が実施するもの。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	市民・観光客等の通行の安全が確保されている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	適正な実施に向け、シルバー人材センターと打合せを行い効率化を図っており、最低限のコストで事業実施している。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	地域景観・環境の保全、市道の安全確保、市長公約の実現が図られている。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		9 ／ 10	→	100点換算	90　点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・これまで各地域ごとに協力して草刈等を行ってきたが、高齢化により実施が難しい地域が増加してきており、今後益々市が実施する割合が高くなることが予測される。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・地域景観、環境を保全するため実施しているが、特例期間終了後は、全市的に実施路線を検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・地域の需要に応え、安全安心な生活道路を確保するため継続する。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・地域住民の、安全安心の基盤となる生活道路である市道を良好に維持管理する必要があり、運転の支障となる雑草除去(草刈)、落石等除去は継続して実施する必要がある。 ・これまで地域住民のボランティアにより実施してきた草刈も、人口の減少・高齢化によりその実施規模も縮小しており、今後市が実施していく箇所も増加することが予測される。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものとの整合を図って実施する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	95299	地域体育施設維持管理事業	担当課	高根支所　地域振興課	内線
	番枝				3710

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	9	教育費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	5	保健体育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	2	体育施設費		○	D	その他事業

根拠計画	
市長公約	高地トレーニングエリアの誘客宣伝及び雇用促進

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	飛騨高山御嶽トレーニング利用者	対象者数	2,300　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・高地トレーニング強化拠点施設として、夜間もグラウンドを利用できることで利用者の増を図る。		
概要	事業の実施手法（手段）	・飛騨高山御嶽トレーニングセンターのグラウンド夜間照明施設の維持管理		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・夜間照明施設電気料 ・ランナー注意看板の設置

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	看板の設置	基	目標値	10	5	0
			実績値	10	4	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	80	－
成果指標	飛騨高山御嶽トレーニングセンターの利用者	人	目標値	2,000	2,200	2,300
			実績値	2,208	1,726	－
	算出根拠等		達成率(%)	110	78	－
成果指標	飛騨高山御嶽トレーニングエリアの利用者	人	目標値		19,000	19,200
			実績値	17,584	16,149	－
	算出根拠等		達成率(%)		85	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	3,621	385	150
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		3,621	385	150
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	1,640	223	65
	受益者　トレーニングセンター利用者	（B）	2,208	1,726	2,300

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・夜間照明は高トレ選手及び消防の練習にも利用されている。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市の施設である高トレセンターの維持管理・誘導に要する費用、及びエリア全体を宣伝していくためのものであり、市が行うもの
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・夜間照明は暖かい夏季の利用のみである。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・ランナー注意看板を適正に設置している。 ・利用状況に合わせ、夜間電気使用料の効率化をはかる。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・ランナー注意看板により公道を走る利用者の安全確保が図られた
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 ／ 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・グラウンド（夜間照明施設）の利用者を増やす必要がある。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・ランナーが安全に利用できるよう施設の維持管理を行うとともに、利用者増の方策について検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・夜間利用ができるPRや利用の促進

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	夜間でもトレーニングができることを誘客に活用し、夜間照明の維持管理をおこなう。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・ランナーが安全に利用できるよう施設の維持管理を行うとともに、利用者増の方策について検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	20999	地域振興助成事業	担当課	高根支所　地域振興課	内線
	番枝				3710

予算				特別予算の位置付け		
会計	1	一般会計		A	合併前から実施されているイベント・行事
款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	9	企画費		D	その他事業

根拠計画		地域振興計画
市長公約		「合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。」 ・地域の個性あるまちづくりと、市域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根支所地域全住民	対象者数	398　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、市民自らが主体となって取り組む地域振興事業を支援する。		
概要	事業の実施手法（手段）	・地域の住民が自主的、主体的に取り組む公共性の高い地域づくりへの補助		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	・美化運動事業（4件）、飛騨高山高根町火畑そば収穫祭事業、入山禁止看板設置事業、駐車禁止看板設置事業、旧江戸街道案内看板設置事業、飛騨高山高根町特産品PR事業、第3回Snow Candle Night In高根事業

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	地域振興事業補助金採択件数	件	目標値	10	10	10
			実績値	11	11	－
	算出根拠等		達成率(%)	110	110	－
成果指標	地域振興事業補助金実績額	千円	目標値	2,000	2,500	2,500
			実績値	1,786	1,853	－
	算出根拠等		達成率(%)	89	74	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	1,786	1,853	2,500
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		1,786	1,853	2,500
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	3,951	4,444	6,281
	受益者　4月1日現在高根町住民	（B）	452	417	398

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・美化運動・江戸街道の案内看板設置・地域活性化事業等様々なニーズがある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・この補助金により地域住民自らが主体となって取り組むことが出来る。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・各団体の意図する事業が行われた。尚、執行率が74.1%にとどまった。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・それぞれ最小限のコストとなるよう努めている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・旧江戸街道案内看板設置事業や「青氷の滝」環境整備、また特産品の普及等につながる特産品PR事業などは「高根地域の個性あるまちづくり」に効果があった。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	9 ／ 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・将来的に補助できないものについては、その旨を団体に説明しなければならない。又、内容によっては一般予算の補助制度に該当する事業に見直すなど調整が必要である。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応について検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・将来的に補助できないものについては、その旨を地元へ説明しながら徐々に補助金を減額していく。又、一般予算の補助制度に該当する事業内容に見直しが可能かについて団体に助成制度を説明していく。

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・新規事業については、特別予算終了前に完結、あるいは終了後は補助なしで継続できるよう協議しながら実施する。 ・継続事業については、事業内容等の見直しにより、他の補助制度等に移行可能な事業は移行するとともに、以降困難な事業については、事業の規模の縮小を協議しながら継続する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応について検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	20999	地域要望対応事業	担当課	高根支所　地域振興課	内線
	番枝				3710

予算			特別予算の位置付け			
会計	1	一般会計			A	合併前から実施されているイベント・行事
款	2	総務費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
項	1	総務管理費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	9	企画費		○	D	その他事業

根拠計画	地域振興計画
市長公約	「合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。」 ・地域の個性あるまちづくりと、市域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	高根支所地域全住民	対象者数	398　人
	どういう状態にしたいのか（意図）	・市有施設で地域からの要望に即応するもの		
概要	事業の実施手法（手段）	・市道、農道、水路等の公共施設の軽微な修繕		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	外灯修繕、道路修繕、公民館舗装、源泉施設修繕、用水路修繕など

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	地域要望対応事業採択件数	件	目標値	7	10	10
			実績値	7	7	－
	算出根拠等		達成率(%)	100	70	－
成果指標	地域要望対応事業実績額	千円	目標値	2,500	4,000	3,900
			実績値	2,025	3,710	－
	算出根拠等		達成率(%)	81	93	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）		（A）	2,025	3,710	3,900
財源内訳	受益者負担（使用料・負担金等）				
	その他特定財源（国・県支出金・起債等）				
	一般財源		2,025	3,710	3,900
コスト指標	受益者1件当たり（円）	（A／B）	4,480	8,897	9,799
	受益者　高根支所地域全住民	（B）	452	417	398

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・広大な面積の中、施設などの老朽化も多く、市民が安心して暮らすための改善や要望は多数ある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の修繕である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・住民の要望に即応する事業であることから十分な成果があがっている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・最小限のコストで適正に実施されている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域の個性あるまちづくりを推進する上で政策的に効果がある。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	10 ／ 10	→	100点換算	100 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応について検討する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	

次年度の実施方針（担当課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・引き続き実施する。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応について検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート（地域振興特別予算）

事業名	21100	土地借上料	担当課	高根支所　基盤産業課	内線 3741
	番枝				

予算		特別予算の位置付け		
会計				A 合併前から実施されているイベント・行事
款			○	B 一般予算の上乗せとして実施されている事業
項				C 終期を定めて実施する事業・単年度事業
目				D その他事業

根拠計画		
市長公約	6	市民の生活と生命・財産を守ります。 ・安全安心な上水道を提供するため、施設の整備を加速するとともに、未給水地域の解消に努めます。

1　事業の目的・概要（Plan）

目的	誰を（対象）	簡易水道施設地主	対象者数	5　人
目的	どういう状態にしたいのか（意図）	・水道施設用地の借上料		
概要	事業の実施手法（手段）	・市の基準を上回る土地賃貸借		

2　事業の推移・結果（Do）

成果面

H24の実績	簡易水道施設、資材置場土地賃貸借

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	土地賃借契約者数	人	目標値	14	14	5
			実績値	14	14	－
	算出根拠等：契約書		達成率(%)	100	100	－
成果指標	給水人口	人	目標値	452	417	387
			実績値	425	392	－
	算出根拠等：		達成率(%)	94	94	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等：		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等：		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等：		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等：		達成率(%)			－

補足事項

コスト面

事業費（人件費を除き繰越・補正を含む）	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出（千円）（A）	206	152	152
財源内訳：受益者負担（使用料・負担金等）			
財源内訳：その他特定財源（国・県支出金・起債等）			
財源内訳：一般財源	206	152	152
コスト指標：受益者1件当たり（円）（A／B）	25,750	30,400	30,400
コスト指標：受益者　基準外の土地所有者数（B）	8	5	5

3　分析・評価（Check）　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明（評価の理由等）
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	安心安全な水の供給に対する市民の関心は高く、そのため施設の借上等は必要不可欠である。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	公益性から妥当である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	安心安全な上水道の提供に寄与している。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	契約更新時に市の基準により契約できるよう所有者と引き続き交渉していく。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	安心安全な上水道の提供に寄与しており、政策の推進に効果がある。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	9 ／ 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題（「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・土地賃借料が市の基準となるよう所有者との単価交渉を継続的にすすめた結果、基準外の土地所有者は減少してきた。 今後も安心安全な水の供給のため、引き続き交渉を継続する。
（参考）H24事業評価結果（二次評価）	・市の基準に近づくよう単価交渉を継続する必要がある。

4　今後の方向性（Action）

課題等に対する今年度の対応状況	・次年度契約にあたり、所有者と単価交渉をする。

次年度の実施方針（担当課評価）	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・引き続き契約にあたり市の基準での単価交渉を進める。				

二次評価（企画課・総務課・財政課評価）	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H25完了予定
	（担当課評価に同じ）				